

「共生・共生教育」に関する意識調査

「共生・共生教育に関する意識調査」へのご協力をお願い

この調査は、あなたの考える「共生・共生教育」についてお聞きするものです。
以下の「調査について」の説明をご理解いただいた上で、ご協力いただければと思います。

●調査について●

- ①調査は無記名ですので、個人が特定されることはありません。
- ②正しい答えはございませんので、思った通りにお答えください。
- ③性別や年齢など属性に関係する事項や教育・社会に関するご意見も伺いますが、
回答内容から個人が特定されたり、回答内容によって不都合が生じたりすることは決してありません。
- ④回答は、研究以外の目的で使用することはありません。
- ⑤回答の所要時間は、おおよそ20分程度です。

以上をご確認のうえ、ご回答ください。

回答をもって、この調査への協力に同意していただいたものとさせていただきます。

この研究は筑波大学人間系研究倫理委員会の承認を得て、
回答者の皆様に不都合が生じないよう万全の注意を払って行われています。
研究協力への同意後においても、いつでも回答者となることを、不都合を生じさせることなく撤回することができます。

当アンケートの回答者の皆様へお願い

マクロミルモニタの皆様にモニタ規約にて「調査についての守秘義務」の徹底をお願いしています。

当アンケートの内容および当アンケートで知り得た情報については、決して第三者に口外しないよう(掲示板やホームページへの書き込みを含む)、ご協力お願いします。

Q 1. あなたの性別として、あてはまるものをお選びください。(%)

1. 男性 (79.1) 2. 女性 (20.7) 3. その他 (0.2)

Q 2. あなたの年齢をご記入ください。(%)

- 20歳～29歳 (7.1)
30歳～39歳 (15.6)
40歳～49歳 (30.7)
50歳～59歳 (44.0)
60歳～ (2.6)

Q 3. 教職歴は、何年ですか。非常勤講師でお勤めの年数は除き、常勤講師・教諭としてお勤めの年数をお答えください。※途中で中断期間がある方は、合計の期間をお答えください。(%)

- 1年～5年 (8.4)
6年～10年 (9.9)
11年～15年 (10.8)
16年～20年 (10.8)
21年～25年 (14.6)
26年～30年 (20.7)
31年～35年 (20.2)
36年～40年 (4.6)

Q 4. 現在の勤務校は、次のうちのどれですか。(%)

1. 国公立中学校 (43.2)
2. 私立中学校 (0.3)
3. 国公立高等学校 (40.1)
4. 私立高等学校 (8.0)
5. 国公立中高一貫校 (0.7)
6. 私立中高一貫校 (7.7)

Q 5. 現在の勤務校は男女共学校ですか。男子校・女子校ですか。(%)

1. 男女共学校 (95.2)
2. 男子校 (2.6)
3. 女子校 (2.1)

Q 6. 高等学校および中高一貫校の先生にお聞きます。現在の勤務校には、どのような学科が設置されていますか。中高一貫校にお勤めの方は、高校段階についてお答えください。(いくつでも)
(%) (N=344)

1. 普通科 (78.2)
2. 専門学科 (30.8)
3. 総合学科 (6.4)

Q 7. 高等学校および中高一貫校の先生にお聞きします。現在の勤務校の生徒の卒業後の進路について、次の進路に進む生徒が、おおよそ何%くらいいるかをお教えてください。合計が 100%となるようにお答えください。中高一貫校にお勤めの方は、高校段階についてお答えください。(A=344)

1. 進学校 (80%以上が進学) (46.2)
2. 進路多様校 (20%以上が就職・その他、未定) (53.8)

Q 8. 現在の勤務校におけるあなたの職をお教えてください。

1. 教諭 (主幹教諭・指導教諭を含む) (94.3)
2. 常勤講師 (5.7)

Q 9. 現在の勤務校における在職年数をお教えてください。非常勤講師でお勤めの年数は除き、常勤講師・教諭として勤務された年数をお教えてください。※中断期間がある方は、合算した年数をお答えください。

- 1年～5年 (61.2)
- 6年～10年 (21.5)
- 11年～15年 (3.8)
- 16年～20年 (2.1)
- 21年～25年 (1.8)
- 26年～30年 (3.0)
- 31年～35年 (1.8)
- 36年～40年 (0.2)
- 矛盾のある回答【欠損値処理】 (4.6)

Q10. 現在の勤務校は、何校目になりますか。非常勤講師でお勤めの校数は除き、常勤講師・教諭として勤務された校数をお教えてください。

- 1校 (14.6)
- 2、3校 (22.5)
- 4校以上 (62.9)

Q11. 現在の勤務校で担当している教科をお答えください。中高一貫校にお勤めで、中学校段階と高校段階の両方で授業を担当している場合には、両方にお答えください。(いくつでも)

中学校での担当		高等学校での担当	
1. 国語 (8.4)	7. 保健体育 (3.6)	10. 国語 (4.8)	16. 芸術 (1.1)
2. 社会 (9.0)	8. 技術・家庭 (4.4)	11. 地理歴史 (8.4)	17. 外国語 (7.4)
3. 数学 (12.0)	9. 英語 (外国語) (9.0)	12. 公民 (6.2)	18. 家庭 (0.7)
4. 理科 (7.7)		13. 数学 (10.2)	19. 情報 (3.4)
5. 音楽 (2.3)		14. 理科 (9.4)	20. 専門教育に関する各教科 (7.1)
6. 美術 (2.3)		15. 保健体育 (2.8)	

Q12. 現在の勤務校で担当している教科以外の教科の免許状（中学校・高等学校普通免許状）をお持ちですか。お持ちの場合、その免許状の「教科」をご記入ください。

所持（18.7）

非所持（81.3）

Q13. 就いている校務分掌（学級担任、部活動の顧問は含みません）をお教えてください。（いくつでも）（%）

1. 総務・庶務関連の分掌（14.1）
2. 教務関連の分掌（35.3）
3. 生徒指導・生活指導関連の分掌（23.3）
4. 特別活動関連の分掌（14.3）
5. 進路指導関連の分掌（22.3）
6. 研究・研修関連の分掌（12.2）
7. その他の分掌（6.1）

Q14. 学級担任をしていらっしゃいますか。（%）

1. 正担任をしている（43.5）
2. 副担任をしている（34.2）
3. していない（22.3）

Q15. 部活の顧問をしていらっしゃいますか。（いくつでも）・正顧問に加えて、別の部の副顧問もしている場合は、両方にお答えください。（%）

1. 正顧問をしている（57.6）
2. 副顧問をしている（36.3）
3. していない（8.2）

Q16. 現在の日本の社会は、収入や財産の点で大きな差がある「格差社会」になりつつあると言われています。それでは、この場合の「格差」とは、何がもたらす「差」だと考えますか。「格差」をもたらすものとして大きな力をもつと思うものを次の中から順に3つまで選んで、お答えください。※あてはまるものが無い方も、いずれかお気持ちに近いものをお選びください。（%）

	本人の努力	本人の生まれ持った才能	親による教育	親の資産（お金や物）	受けた教育	生まれ育った地域特性	運などの偶然的なもの
1位/番目	20.4	5.4	22.8	41.1	3.1	5.1	2.1
2位/番目	15.5	14.1	30.3	12.8	14.8	9.9	2.5
3位/番目	22.9	15.8	11.5	9.6	17.6	13.5	9.1

Q17. 高い地位や経済的豊かさなどの利益をどのような人が得るのがよいか、という点について、次のような意見があります。この中であなたの意見に最も近いものを1つ選んでお答えください。(%)

1. 実績をあげた人ほど多くの利益を得るのが望ましい。(30.4)
2. 努力した人ほど多くの利益を得るのが望ましい。(50.2)
3. 必要としている人が必要なだけ利益を得るのが望ましい。(13.1)
4. 誰でもが同じくらいに利益を得るのが望ましい。(6.2)

Q18. 「貧困」と「貧困に対する扶助」として、あなたの考えに最も近いものを次の中から1つ選んでお答えください。(%)

1. 自己責任であるので、公的な扶助は必要ない。(10.7)
2. 自己責任だが、公的に扶助すべきである。(36.6)
3. 格差社会の構造の問題なので、公的に扶助すべきである。(47.0)
4. 格差社会の構造の問題だが、公的な扶助は必要ない。(5.7)

Q19. 「共生社会」という言い方でもって、目指す社会の在り方を示すことがなされています。そこで、「共生」という言葉のイメージについてお聞きします。「人と人が共生する」という言葉から、どのような状態をイメージしますか。あなたのイメージに近いものから順に3つまで選び、ご回答ください。(%)

	まとまりや絆が強い状態	お互いがお互いの存在を認め合っている状態	ひとつの大きな目標が共有されている状態	価値観の異なる多様な人々が、時にぶつかり合っている状態	お互いがお互いの利益になっている状態	人と人との様々な違いが尊重されている状態	誰もが公平に義務や負担を負っている状態	マイノリティの人々の抱える生活しにくさが限りなく少なくなった状態
1位/番目	8.5	41.4	2.5	3.4	8.0	25.0	7.1	4.1
2位/番目	6.4	23.1	5.4	4.9	9.2	34.0	10.4	6.8
3位/番目	11.0	15.1	8.6	5.7	8.3	13.6	17.5	20.2

Q20. 『共生社会』に関する問題としてあなたが思うかべるのはどのようなことですか。次の中から3つまで選んでお答えください。※あてはまるものが無い方も、いずれかお気持ちに近いものをお選びください。(%)

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 近所の人間関係 (22.5) | 7. 仕事と家庭生活のバランス (24.8) |
| 2. 若い世代と高齢者の関係 (38.9) | 8. 日本にいる外国人の社会生活 (15.1) |
| 3. 男性と女性の平等 (36.6) | 9. 企業と消費者の関係 (8.4) |
| 4. 政治的信条の相違 (8.7) | 10. 自然環境と人間の関係 (20.5) |
| 5. 宗教的信条の相違 (9.7) | 11. 都市と農山漁村の関係 (12.0) |
| 6. 障がい者の社会生活 (51.2) | 12. 日本と世界の国々の関係 (16.4) |

Q21. あなたは、日本における次のことについて、賛成ですか。それとも反対ですか。(%)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対
1. 外国人が暮らしやすい社会にすること	21.8	61.7	12.0	4.4
2. 学校で、日本人の生徒と外国人の生徒が一緒にの教室で学ぶこと	28.4	58.9	10.2	2.5
3. 国籍に関係なく、仕事を得る機会が同じようにあること	23.6	59.6	13.8	3.0
4. 永住外国人（国籍はなくても、日本に住み続けることが認められている人）が政治に参加できるようにすること	17.9	46.0	22.0	14.1
5. 外国人学校も、高等学校等就学支援金制度（旧・高等学校授業料無償制）の対象に含めること	13.0	43.8	26.9	16.3
6. 障がいのある人が暮らしやすい社会にすること	56.8	39.4	3.3	0.5
7. 学校で、障がいのある生徒と障がいのない生徒と一緒にの教室で学ぶこと	23.5	46.8	24.0	5.7
8. 障がいに関係なく、仕事を得る機会が同じようにあること	31.7	58.8	8.4	1.1
9. 障がいのある人の公共交通機関（鉄道やバス）の利用料金を安くすること	28.1	54.2	14.0	3.8
10. 障がいのある人がコンサート・ライブで優先的に良い席を確保できるようにすること	16.6	45.8	31.4	6.2
11. 異性愛を前提にしない社会にすること	14.1	49.6	26.9	9.4
12. 同性婚を認めること	14.8	49.6	24.1	11.5
13. 夫婦別姓を認めること	23.8	46.0	21.0	9.2

Q22. 学校教育は、どのような役割を担っていると、あなたは思いますか。次にあげる役割が、どの程度、重要か、あなたの考えに近いところを選んでください。(%)

	とても重要	かなり重要	まあ重要	それほど重要でない	あまり重要でない	まったく重要でない
1. 社会性やコミュニケーション能力を育成する役割	34.6	37.3	25.6	2.3	0.2	0.0
2. 規範意識を育てる役割	35.1	36.8	24.3	3.1	0.7	0.0
3. 基本的な生活習慣を身につけさせる役割	25.9	28.6	33.8	8.5	2.5	0.7
4. 自己実現を支える役割	20.5	40.9	33.8	4.6	0.2	0.0
5. 受験に成功させる役割	7.9	25.8	48.4	13.6	2.6	1.6
6. 学力・能力を育てる役割	26.4	38.6	31.0	3.1	0.8	0.0
7. 居場所を作る役割	17.6	30.0	39.6	9.4	2.0	1.5

◎次のページに続きます。

	とても重要	かなり重要	まあ重要	それほど重要でない	あまり重要でない	まったく重要でない
8. 次の時代の社会の担い手を育てる役割	27.3	37.9	31.2	3.1	0.2	0.3
9. いま社会で起きている事柄・問題への敏感さを育てる役割	14.9	33.3	41.4	8.9	1.0	0.5
10. 他者を尊重する態度や意識を育てる役割	36.3	35.8	23.3	4.3	0.0	0.3
11. 生徒同士の関係性をよくし、よりよい生徒集団をつくる役割	25.8	37.4	30.7	5.3	0.3	0.5
12. いじめや暴力等の生徒同士の問題を予防・発見・対処する役割	26.3	35.1	31.0	5.9	1.0	0.7
13. 地域に貢献する人材を育成する役割	20.2	30.9	38.6	8.0	1.3	1.0

Q23. 学校での日々の教育実践の中で、あなたは次にあげる役割を、どの程度、果たすことができていると思いますか。あなたの実感に近いところを選んでください。(%)

	十分できていると思う	かなりできていると思う	まあできていると思う	それほどできていないと思う	あまりできていないと思う	まったくできていないと思う
1. 社会性やコミュニケーション能力を育成する役割	2.8	16.4	60.3	18.2	1.8	0.5
2. 規範意識を育てる役割	5.1	25.5	51.7	14.0	3.1	0.7
3. 基本的な生活習慣を身につけさせる役割	4.1	24.5	51.2	16.7	3.1	0.3
4. 自己実現を支える役割	4.1	19.7	51.9	21.5	2.8	0.0
5. 受験に成功させる役割	4.4	20.7	49.6	19.5	4.9	0.8
6. 学力・能力を育てる役割	5.4	22.2	52.9	15.4	3.1	1.0
7. 居場所を作る役割	5.9	22.5	49.9	18.7	2.6	0.3
8. 次の時代の社会の担い手を育てる役割	1.5	17.2	50.9	25.5	3.4	1.5
9. いま社会で起きている事柄・問題への敏感さを育てる役割	3.1	14.3	48.1	27.4	5.4	1.6
10. 他者を尊重する態度や意識を育てる役割	5.6	21.3	54.4	15.6	3.0	0.2
11. 生徒同士の関係性をよくし、よりよい生徒集団をつくる役割	5.9	25.1	50.9	15.4	2.6	0.0
12. いじめや暴力等の生徒同士の問題を予防・発見・対処する役割	5.1	25.3	49.6	16.7	2.6	0.7
13. 地域に貢献する人材を育成する役割	2.1	14.6	45.8	28.9	5.9	2.6

Q24. 学校において、日々、教育に携わる上で、次にあげる人と人との間の「違い」が「問題」となることがありますか。また、そうした「問題」の今後は、どのように見通せますか。それぞれについてお答えください。(%)

次のことは、あげる人と人との間の「違い」が「問題」となることが…	「問題」となっていて今後も「問題」になり続けられる	現在は「問題」となっていないが今後「問題」になると思われる	現在は「問題」となっているが今後「問題」とならなくなると思われる	現在も「問題」になっていないし今後も「問題」にならないと思われる
1. 世代や年齢差の違い	46.0	26.9	8.4	18.7
2. 男性や女性といった性別の違い	40.6	20.2	20.9	18.4
3. 身体や心の障がいがあるかないかの違い	53.9	19.9	17.4	8.9
4. 生まれた地域や住んでいる地域の違い	36.3	26.8	15.4	21.5
5. 経済的な豊かさの違い	64.0	25.0	5.3	5.7
6. 家庭環境の違い	65.8	19.9	7.6	6.7
7. 政治についての考え方の違い	27.9	32.8	11.3	27.9
8. 信じている教えや宗教の違い	26.4	30.5	14.1	28.9
9. 人種や国籍の違い	33.0	31.4	16.9	18.7

Q25. 前の質問 (Q24) であげた1～9の「違い」の中で、学校において、日々、教育に携わる際に、特に「問題」と感じるものは何ですか。「問題」と感じるものから順に3つまで選び、お答えください。(%)

	1. 世代や年齢差の違い	2. 男性や女性といった性別の違い	3. 身体や心の障がいがあるかないかの違い	4. 生まれた地域や住んでいる地域の違い	5. 経済的な豊かさの違い	6. 家庭環境の違い	7. 政治についての考え方の違い	8. 信じている教えや宗教の違い	9. 人種や国籍の違い	10. あてはまるものはない	無回答
1. 1位/番目	8.5	3.9	17.6	4.4	23.6	35.1	0.2	1.1	2.1	3.3	
2. 2位/番目	3.3	8.4	8.5	6.6	32.0	23.5	1.3	1.3	2.5	5.1	7.6
3. 3位/番目	8.0	5.3	16.1	13.0	12.0	13.5	2.1	1.8	4.6	7.6	16.1

Q26. 前の質問 (Q24, 25) であげた人と人との間の「違い」に起因する「問題」の中で、あなた自身、日々の教育を通して、その解消や解決に向けて力を入れて取り組んでいるものがありますか。力を入れて取り組んでいるものすべてを選んでお答えください。(いくつでも) (%)

1. 世代や年齢差の違いに起因する「問題」(10.2)
2. 男性や女性といった性別の違いに起因する「問題」(20.2)
3. 身体や心の障がいがあるかないかの違いに起因する「問題」(36.5)

◎次のページに続きます。

4. 生まれた地域や住んでいる地域の違いに起因する「問題」(15.9)
5. 経済的な豊かさの違いに起因する「問題」(21.5)
6. 家庭環境の違いに起因する「問題」(27.6)
7. 政治についての考え方の違いに起因する「問題」(4.6)
8. 信じている教えや宗教の違いに起因する「問題」(5.6)
9. 人種や国籍の違いに起因する「問題」(12.2)
10. あてはまるものはない(31.5)

Q27. これまでの教員経験の中で、次のような指導や取組み、実践をすることが、どの程度、ありましたか。それぞれについて、お答えください。(%)

これまでの教員経験の中で…	よくあった	まああった	あまり なかった	なかった
1. 障がいがある生徒がいるクラスにおいて、その生徒に対する周囲の生徒の理解を促す指導をすることが…	12.8	49.6	22.8	14.8
2. 外国籍の生徒がいるクラスにおいて、その生徒に対する周囲の生徒の理解を促す指導をすることが…	5.9	29.7	27.8	36.6
3. 社会で障がいのある人や外国の人と出会うことを前提に指導内容を考え、実践することが…	6.1	42.4	32.3	19.2
4. 共生について考えさせる内容で教科指導をすることが…	6.6	38.1	34.2	21.2
5. 障がいのある人との交流機会を設ける取組みをすることが…	7.4	36.1	32.3	24.1
6. 高齢の人との交流機会を設ける取組みをすることが…	4.8	33.5	34.3	27.4
7. 外国人との交流機会を設ける取組みをすることが…	5.7	30.7	34.6	28.9
8. さまざまな差異をお互いに尊重し合える集団づくりの取組みをすることが…	10.7	49.8	27.3	12.3
9. 生徒間の対立や衝突が起きないように指導をすることが…	23.6	56.2	15.4	4.8
10. 生徒間で対立や衝突が起きることを前提に指導をすることが…	18.7	49.4	25.6	6.2
11. 不登校やいじめ、非行など、生徒が抱えたり引き起こしたりする問題を積極的に取り上げて実践することが…	18.7	53.2	22.2	5.9
12. 多様性を認め合う生徒の関係づくりの取組みをすることが…	17.2	54.5	22.3	5.9
13. 地域の産業を学び、地元に貢献することについて考える機会を設けて指導することが…	10.0	40.7	33.3	15.9

◎次のページに続きます。

これまでの教員経験の中で・・・	よくあった	まああった	あまり なかった	なかった
14. 今、住んでいる地域とは別の地域で暮らすこと について考える機会を設けて指導する ことが・・・	5.3	33.2	37.8	23.8
15. 大学進学について考える機会を設けて指導する ことが・・・	23.6	43.7	24.1	8.5

Q28. あなたは、教員として次のことに賛成ですか。それとも反対ですか。それぞれについて、賛成か、反対かでお答えください。(%)

	賛成	どちらか といえば賛成	どちらか といえば反対	反対	わからない
1. 障がいのある生徒と障がいのない生徒が一緒に教室で学ぶこと	18.7	43.8	22.7	7.9	6.9
2. 障がいのある生徒が必要に応じて、別の教室で学ぶこと	34.8	50.4	9.2	2.0	3.6
3. 障がいのある生徒が特別支援学校で学ぶこと	38.8	48.9	6.2	0.5	5.6
4. 障がいのある生徒に対して、教育支援員が帯同すること	39.1	49.9	4.9	1.1	4.9
5. 障がい者理解に関する授業をおこなうこと	42.0	49.3	4.4	1.0	3.3
6. 男子・女子の制服が異なること	32.5	39.6	10.3	4.8	12.8
7. 全校集会等で男女別に整列をすること	20.0	36.9	18.2	13.0	11.8
8. 体育の授業で、男子生徒は武道、女子生徒はダンスを選択させること	9.7	25.5	27.9	22.7	14.3
9. 性教育等の授業を男女別に行うこと	19.2	38.8	19.4	12.8	9.9
10. 男子校・女子校が存在すること	24.1	40.2	14.6	4.8	16.3
11. 性的マイノリティ(LGBT)理解に関する授業を行うこと	24.3	48.4	11.2	5.6	10.5
12. 異性愛(男性は女性、女性は男性を好きになること)を前提として、教育活動を行うこと	12.8	39.1	21.8	8.0	18.2
13. 日本人の生徒と外国人の生徒が一緒に教室で学ぶこと	31.9	50.7	8.9	2.0	6.6
14. 外国人の生徒に、日本語の補充指導を行うこと	35.5	47.1	8.4	3.1	5.9
15. 異文化理解に関する授業を行うこと	48.4	42.5	4.8	0.5	3.8

Q29. あなたは同じ教員として、教員の次の対応を、どのように思いますか。納得できるか、疑問かでお答えください。(%)

	納得できる	まあ納得できる	やや疑問を感じる	疑問を感じる	わからない
1. 女子生徒が硬式野球部への入部を希望したが、他の部活動への入部を勧めた。	7.9	26.8	32.3	30.0	3.0
2. 男子生徒が、将来の職業として保育士を志し、保育の専門学校への進学を希望したが、他の進路を勧めた。	5.9	8.7	21.8	60.9	2.6
3. 性的マイノリティ (LGBT) の生徒が、生物学的な性別とは異なるトイレを使用したいと申し出たが、生物学的な性別に基づくトイレを使用するように指導した。	11.5	33.2	25.6	17.7	12.0
4. 性的マイノリティ (LGBT) の生徒が、将来、生物学的に同性の人と結婚することについて相談してきたが、諦めるよう助言した。	4.4	11.7	34.0	36.5	13.5
5. 障がい (肢体不自由) のある生徒が、体育祭での大縄跳びへの参加を希望したが、応援させた。	8.7	28.6	30.9	24.1	7.7
6. 障がいのある生徒が、通常学級で授業を受けることを希望したが、障がいの程度を考慮して、通級指導教室で授業を行った。	14.0	42.4	25.1	12.8	5.7
7. 障がい (視覚障がい) のある生徒が、将来の職業としてデザイナーを希望したが、障がいの程度を考慮して、他の進路を勧めた。	4.9	25.5	35.0	27.9	6.7
8. 日本語が不自由な外国人の児童 (10歳) を、語学力を考慮して、小学校1年生の国語の授業に参加させた。	13.8	36.9	27.3	14.0	8.0
9. 外国人の生徒が、国語の教員免許を取得する学部への進学を志望したが、外国語の教員免許を取得する学部への進学を勧めた。	3.4	12.6	34.6	41.9	7.4

Q30. 「特別な支援や配慮」を必要とする生徒への対応について、次に示す【A】と【B】、2つの対応があった場合、あなたはどちらの対応が望ましいと思いますか。(1)～(8)のそれぞれについて、教えてください。(%)

	【A】の対応が望ましいと思う	どちらかといえば【A】の対応が望ましいと思う	どちらかといえば【B】の対応が望ましいと思う	【B】の対応が望ましいと思う	
外国人の生徒に対応する場合					
1. 【A】クラスの中で目立つことのないように対応する。	9.9	52.4	33.5	4.3	【B】クラスの中の特別な存在であることを表に出して対応する。
2. 【A】日本の社会の一員として暮らせるように対応する。	13.8	54.5	27.3	4.4	【B】外国人であることを生かして暮らせるように対応する。
障がいのある生徒に対応する場合					
3. 【A】クラスの中で目立つことのないように対応する。	7.2	47.8	38.9	6.1	【B】クラスの中の特別な存在であることを表に出して対応する。
4. 【A】健常の生徒との違いをなくすことに力点をおいて対応する。	4.8	32.3	47.0	15.9	【B】健常の生徒がもっていないものを見出し、伸ばすことに力点をおいて対応する。
性的マイノリティの生徒に対応する場合					
5. 【A】その生徒のことが他の生徒にわからないように、そっと対応する。	13.3	51.4	30.5	4.8	【B】その生徒のことを他の生徒が理解できるように、事実を明らかにして対応する。
6. 【A】学校のルールを優先して、「特別な支援や配慮」は最低限になるように対応する。	11.2	52.7	32.7	3.4	【B】学校のルールは二の次にして、「特別な支援や配慮」を最大限にして対応する。
貧困の状況にある生徒に対応する場合					
7. 【A】そのことが他の生徒にわからないように、そっと対応する。	36.6	47.9	14.1	1.3	【B】そのことを他の生徒が理解できるように、事実を明らかにして対応する。
8. 【A】学校のルールを優先して、「特別な支援や配慮」は最低限になるように対応する。	13.5	49.3	31.0	6.2	【B】学校のルールは二の次にして、「特別な支援や配慮」を最大限にして対応する。

Q31. 「障がいのある生徒」「外国人の生徒」「性的マイノリティの生徒」「貧困状況にある生徒」に対する「特別な支援や配慮」について伺います。「特別な支援や配慮」をすることで、次にあげることが、「あり得る」と思いますか。思いませんか。それぞれ選んでお答えください。(%)

	「あり得る」と思う	まあ「あり得る」と思う	あまり「あり得る」と思わない	「あり得る」と思わない
1. 授業が進めづらくなること	27.8	58.3	10.3	3.6
2. 該当する生徒以外の生徒への対応に時間を割けなくなること	30.5	54.5	12.2	2.8

◎次のページに続きます。

	「あり得る」と思う	まあ「あり得る」と思う	あまり「あり得る」と思わない	「あり得る」と思わない
3. 学校が果たすべき役割が増えること	46.8	44.8	7.1	1.3
4. 教員がすべきことが増えること	53.2	40.1	5.7	1.0
5. 生徒のプライベートに立ち入ることが多くなること	36.0	50.4	11.7	2.0
6. 生徒同士の関係に目を向ける必要が増すこと	39.2	52.9	6.6	1.3
7. 気にしていなければならないことが増すこと	46.1	47.6	5.3	1.0
8. 教育の場の統一性が失われること	15.9	37.4	38.8	7.9
9. 学校や学級の集団性が薄れること	10.0	28.6	45.0	16.4

Q32. 続けて伺います。仮に「あり得る」として、そのことは、「問題だ」と思いますか。思いませんか。それぞれ選んでお答えください。(%)

	「問題だ」と思う	やや「問題だ」と思う	あまり「問題だ」と思わない	「問題だ」と思わない
1. 授業が進めづらくなること	24.1	49.6	21.5	4.8
2. 該当する生徒以外の生徒への対応に時間を割けなくなる	28.7	49.3	18.6	3.4
3. 学校が果たすべき役割が増えること	25.1	40.7	27.9	6.2
4. 教員がすべきことが増えること	29.7	39.6	25.0	5.7
5. 生徒のプライベートに立ち入ることが多くなること	18.1	41.7	33.2	7.1
6. 生徒同士の関係に目を向ける必要が増すこと	13.1	35.1	41.2	10.5
7. 気にしていなければならないことが増すこと	17.1	37.6	37.8	7.6
8. 教育の場の統一性が失われること	17.4	37.1	36.5	9.0
9. 学校や学級の集団性が薄れること	18.2	38.6	33.7	9.5

Q33. 『特別な支援や配慮』を必要とするかどうかは、それぞれの生徒の様子に拠るところも大きいかと思います。『特別な支援や配慮』を必要とするかどうかを判断するサインとして、あなたは生徒にかかわる次のことに、どの程度、着目していますか。それぞれについて、お答えください。(%)

	着目している	まあ着目している	あまり着目していない	あてはまらない
1. 言動や表情が、いつもと異なっていないかどうか	40.2	54.8	4.8	0.2
2. 遅刻や欠席が目立ってきていないかどうか	56.8	38.6	4.6	0.0
3. 宿題を忘れてたり、居眠りをしたり、授業に集中しなくなっていないかどうか	41.1	50.1	8.4	0.5
4. 校則に違反することをすることが多くなっていないかどうか	42.2	45.6	11.7	0.5
5. クラスで孤立していないかどうか	54.7	40.7	4.4	0.2
6. 他の生徒から笑われたり、からかわれたりしていないかどうか	56.7	38.9	4.1	0.3
7. 他の生徒とトラブルを起こしていないかどうか	52.5	42.7	4.6	0.2
8. テストの成績が下がってきていないかどうか	30.5	55.2	12.8	1.5
9. 他の生徒の保護者からの情報として、その生徒のことが耳に入っていないかどうか	26.8	53.5	17.9	1.8

Q34. 「障がいのある生徒」「外国人の生徒」「性的マイノリティの生徒」「貧困状況にある生徒」など、「特別な支援や配慮」を必要とする生徒に対応しようという場合、あなたは、次にあげたことを、どの程度、参考にしようと思いますか。(%)

	参考にしようと思う	まあ参考にしようと思う	あまり参考にしようと思わない	参考にしようと思わない
1. 教育委員会からの指導・助言	13.8	55.5	22.2	8.5
2. 校長(学校長)、教頭など、管理職からの指導・助言	26.8	56.7	13.8	2.8
3. 同じ学年を担当している同僚教員からの指導・助言	47.3	47.5	4.6	0.7
4. 同じ校務分掌の同僚教員からの指導・助言	40.4	52.1	6.2	1.3
5. 養護教諭や栄養教諭、司書教諭など特別な役割をもった同僚教員からの指導・助言	50.1	42.5	5.6	1.8
6. スクールカウンセラーからの指導・助言	46.5	44.5	7.2	1.8
7. スタールソーシャルワーカーからの指導・助言	38.4	49.6	9.0	3.0
8. 大学・大学教員や医療機関・医師・保健師、児童相談所・児童福祉司など、専門機関や専門家からの指導・助言	22.5	57.0	16.3	4.3
9. NPOやボランティア団体など、生徒の支援をしている団体・団体関係者からの指導・助言	15.3	55.5	23.8	5.4
10. 当該の生徒からの要請・要望	53.4	40.6	5.1	1.0
11. 当該の生徒の保護者からの要請・要望	50.7	41.9	6.4	1.0
12. 当該の生徒以外の生徒からの要請・要望 スクールカウンセラーからの指導・助言	26.8	60.3	11.3	1.6
13. 当該の生徒以外の生徒の保護者からの要請・要望	21.2	58.9	17.4	2.5
14. あなた自身のこれまでの経験や実績	33.5	55.2	9.5	1.8

Q35. 日々の教育活動を振り返って、あなたの場合、次にあげる生徒への支援や配慮が、どの程度、できているとお考えですか。(%)

	できている	まあできている	あまりできていない	できていない	配慮を必要とする生徒はいない
1. 障がいのある生徒	10.7	51.2	18.9	3.3	15.9
2. 外国人の生徒	8.5	33.0	19.2	3.1	36.1
3. 性的マイノリティの生徒	3.3	17.2	21.0	11.2	47.3
4. 貧困状況にある生徒	5.7	39.1	28.6	8.4	18.2

Q36. 言葉のイメージについてお聞きます。次の言葉からあなたがイメージするのは、「男性」ですか。「女性」ですか。それとも「男性と女性の両方」ですか。それぞれについて1つ選んでお答えください。(%)

	男性をイメージする	どちらかという と男性をイメージする	どちらかという と女性をイメージする	女性をイメージする	男性と女性の 両方をイメージする
1. 黒いランドセル	45.6	47.8	1.0	0.3	5.3
2. 野球	35.6	54.0	1.6	0.7	8.0

◎次のページに続きます。

	男性をイメージする	どちらかという と男性をイメージする	どちらかという と女性をイメージする	女性をイメージする	男性と女性の 両方をイメージする
3. 看護師	0.2	2.3	51.9	24.0	21.7
4. 泣く	0.0	2.0	36.3	11.3	50.4
5. 料理をする	0.0	2.1	38.6	14.9	44.3
6. 優しい	0.7	3.6	25.0	8.7	62.1
7. 医師	8.7	33.3	3.6	0.7	53.7
8. ゲーム機	13.5	39.6	4.3	0.8	41.9
9. 力が強い	45.3	45.3	2.6	0.8	5.9
10. ピアノ	0.2	2.1	43.5	18.4	35.8
11. 家族をお金の面で支える	14.8	39.4	4.6	0.8	40.4
12. 赤いランドセル	0.2	1.6	39.9	51.6	6.7
13. 校長先生	14.1	35.0	4.8	0.7	45.5
14. 子育てをする	0.3	2.1	39.1	20.0	38.4
15. サッカー	17.6	37.9	3.4	0.5	40.6

Q37. あなたは、日本の歴史についてどのような印象をもっていますか。それぞれについて1つ選んでお答えください。(%)

	そう思う	どちらとも いえない	そう思わない	わからない
1. 日本の社会では総じて、人びとは助け合って暮らしてきた。	64.2	25.6	8.4	1.8
2. 天皇と皇室は世界の中でも最も古くから続く統治の主体である。	39.2	34.5	17.9	8.4
3. 「国風文化」の発生は中国文化の影響から脱することを意味した。	29.7	35.5	17.7	17.1
4. 琉球の歴史は日本の歴史の一部である。	40.1	33.8	19.7	6.4
5. 江戸時代の社会は、対立よりも調和によって特徴づけられる。	40.9	36.0	11.0	12.2
6. 明治維新以後に、国家としての「日本」は初めて成立した。	31.7	34.0	22.5	11.8
7. 日本人の勤勉さが日本の近代化を支えた。	71.6	22.3	3.9	2.1
8. 明治時代以降、学校制度は国家官僚制の一部として機能してきた。	44.3	36.0	6.4	13.3
9. それぞれの地域の産業は、その地域に生まれた人々が支えてきた。	57.1	33.2	5.3	4.4

Q38. 「共生教育」は、学校教育のどのような場で行われることがよいと思いますか。「特によい」と思われるものを1つ選んでお答えください。(%)

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 教科の授業 (14.0) | 4. 学校行事 (11.0) |
| 2. 総合的な学習の時間 (30.5) | 5. 道徳の時間 (13.6) |
| 3. 学級活動 (ホームルーム活動)の時間 (26.1) | 6. 部活動 (0.8) |
| | 7. その他 (0.5) |

Q39. あなたが卒業された大学・学部についてお伺いします。設置者の別をお教えてください。
※2 つ以上の大学を出ている方は、最後に卒業された大学についてお答えください。(%)

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1. 国立 (49.1) | 3. 私立 (40.7) |
| 2. 公立 (10.0) | 4. 大学は卒業していない (0.2) |

Q40. 卒業された学部は、教員養成系の学部ですか。それ以外の学部ですか。※2 つ以上の大学を出ている方は、最後に卒業された大学についてお答えください。(%)

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1. 教員養成系の学部 (34.6) | 2. 教員養成系の学部以外の学部 (65.2) |
|--------------------|-------------------------|

Q41. 所持している教員免許をお教えてください。(いくつでも)「一種、二種、専修」の別もお答えください。(%)

幼稚園教諭普通免許状	1. 一種 (0.8)	2. 二種 (1.3)	3. 専修 (0.0)
小学校教諭普通免許状	4. 一種 (11.2)	5. 二種 (6.9)	6. 専修 (1.3)
中学校教諭普通免許状	7. 一種 (72.4)	8. 二種 (6.9)	9. 専修 (11.0)
高等学校教諭普通免許状	10. 一種 (77.8)		11. 専修 (19.7)
特別支援学校教諭免許状	12. 一種 (2.3)	13. 二種 (6.1)	14. 専修 (0.2)
	15. その他 (0.5)		

Q42. 次にあげる心理学関係の資格等を持っていたり、受講歴があったりしますか。(いくつでも)(%)

1. 学校心理士 (1.5)
2. 臨床心理士 (1.0)
3. 臨床発達心理士 (0.2)
4. その他の心理学関係の資格・受講歴 (2.3)
5. 心理学関係の資格や受講歴はない (95.4)

Q43. 次にあげる日本語教育関連の資格等を持っていたり、受講歴があったりしますか。(いくつでも)(%)

1. 大学で主専攻あるいは副専攻の日本語教育科目を履修、卒業 (3.0)
2. 日本語教師養成講座において 420 時間以上の講座を受講 (1.3)
3. 日本語教育能力検定試験合格 (0.5)
4. その他、日本語教育関連の資格・受講歴 (0.2)
5. 日本語教育関連の資格や受講歴はない (95.6)

Q44. 次にあげる社会福祉、障がい者支援、特別支援教育関連の資格等を持っていたり、受講歴があったりしますか。(いくつでも)(%)

1. 社会福祉士 (0.0)
2. 保育士 (0.7)
3. 点字検定合格 (点字技能師) (0.2)
4. 手話検定合格 (0.0)
5. 特別支援教育士 (1.6)
6. その他、社会福祉、障がい者支援、特別支援教育関連の資格・受講歴 (1.6)
7. 社会福祉、障がい者支援、特別支援教育関連の資格や受講歴はない (95.9)

Q45. 教員以外の職歴がありますか。(パート・アルバイトは含めずにお考えください。)(%)

1. ある (25.1)
2. ない (74.9)

Q46. 前問で「ある」とお答えになった方に伺います。教員以外の職歴の年数と職種(できるだけ具体的に)をお教えてください。※1年未満の場合は、年数は「1」とご回答ください。※複数ある方は、主なもの1つについてお答えください。%(N=153)

- 1年未満～1年 (39.9)
- 2年～4年 (32.7)
- 5年以上 (27.5)

Q47. 外国に行った経験についてお伺いします。観光や留学、お仕事など、理由を問わず、外国に行ったことがありますか。(%)

1. ある (80.1)
2. ない (19.9)

Q48. 前問で「ある」とお答えになった方に伺います。回数と通算の滞在期間(月単位—1カ月に満たない場合には「1カ月」とお答えください)、行ったことのある国・地域の数をお教えてください。%(N=488)

【回数】	【通算滞在期間】	【国・地域】
1～5回 (68.0)	1カ月 (66.0)	1～5カ国 (71.5)
6～10回 (16.6)	2カ月 (9.8)	6～10カ国 (16.2)
11回以上 (15.4)	3カ月以上 (24.2)	11カ国以上 (12.3)

Q49. 現在、お住まいの都道府県をお教えてください。(%)

1. 北海道 (7.4)	8. 茨城県 (1.6)	15. 新潟県 (2.5)	22. 静岡県 (3.9)
2. 青森県 (1.0)	9. 栃木県 (1.6)	16. 富山県 (0.8)	23. 愛知県 (6.2)
3. 岩手県 (1.1)	10. 群馬県 (1.3)	17. 石川県 (0.8)	24. 三重県 (2.0)
4. 宮城県 (2.3)	11. 埼玉県 (2.6)	18. 福井県 (0.3)	25. 滋賀県 (1.5)
5. 秋田県 (0.8)	12. 千葉県 (3.3)	19. 山梨県 (0.8)	26. 京都府 (2.0)
6. 山形県 (0.5)	13. 東京都 (8.2)	20. 長野県 (3.6)	27. 大阪府 (5.3)
7. 福島県 (2.5)	14. 神奈川県 (5.6)	21. 岐阜県 (1.6)	28. 兵庫県 (3.1)

◎次のページに続きます。

29. 奈良県 (2.0)	34. 広島県 (1.5)	39. 高知県 (0.7)	44. 大分県 (1.5)
30. 和歌山県 (1.3)	35. 山口県 (1.1)	40. 福岡県 (6.1)	45. 宮崎県 (1.1)
31. 鳥取県 (0.7)	36. 徳島県 (0.5)	41. 佐賀県 (0.3)	46. 鹿児島県 (1.3)
32. 島根県 (0.2)	37. 香川県 (1.1)	42. 長崎県 (1.1)	47. 沖縄県 (1.0)
33. 岡山県 (1.6)	38. 愛媛県 (1.5)	43. 熊本県 (1.0)	

Q50. 現在、お住まいのある地域は、どのような地域ですか。次の中から最も近いものを選んでお答えください。(%)

1. 都市部 (46.0)
2. 郊外 (44.8)
3. 農山漁村 (9.2)

Q51. 配偶者と一緒に暮らしているパートナーの方が、いらっしゃいますか。(%)

1. いる (72.9)
2. いない (27.1)

Q52. あなたご自身に、次のことがあてはまりますか。「はい」「いいえ」でお答えください。(%)

1. 自分を含めた家族や親せきに、障がい者がいる。
 ・ ・ ・ ・ ・ (1. はい (23.5) 2. いいえ (76.5))
2. 自分を含めた家族や親せきに、外国人がいる。
 ・ ・ ・ ・ ・ (1. はい (7.2) 2. いいえ (92.8))
3. 自分を含めた家族や親せきに、性別に関わる問題に直面している人がいる。
 ・ ・ ・ ・ ・ (1. はい (1.6) 2. いいえ (98.4))